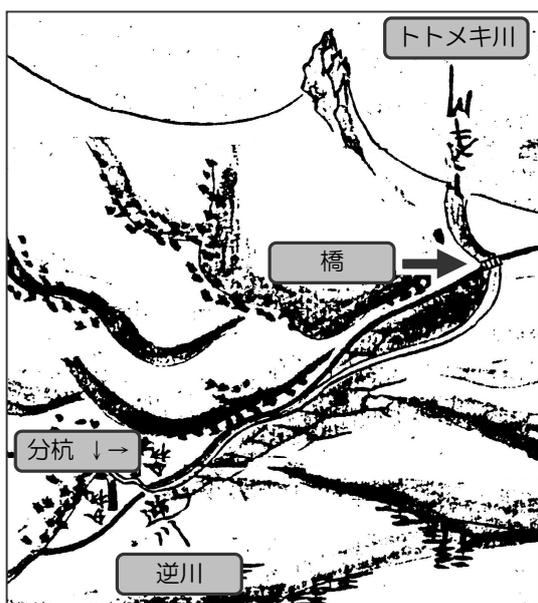


「柏崎の橋」

1 2 前川橋（鯨波地区の川）

鯨波地区の川と橋については、当館所蔵資料において、下記Ⅰ～Ⅴのように記されており、それぞれ若干の違いがある。

Ⅰ：「慶応三年の柏崎海岸絵」（資料①：下掲）には東から前川、トトメキ川があり、いずれも海岸沿いに橋が記されている。



Ⅱ：明治45年発行の「くじらなみ」（資料②）の川の項には、「前川は、川内谷の奥より流れ、川内村を過ぎ、鯨波の東を流れ、鬼穴の前に至って海に入る。橋あり、前川橋といふ。河口にて鮒（いさざ）を捕ふ。」とあり、他に逆川、花立川、松尾川、度々目喜川、叶川（前川支流）の記述がある。ところが、同書添付の地図には、前川と前川橋のみ記されている。前川以外は、小川又は細流と記されているので、地図では省略されたものと思われる。

Ⅲ：大正12年発行の「鯨波村是」（資料③）の添付地図には、東から前川、逆川、松尾川があり、いずれも海岸沿いに橋が記されている。

Ⅳ：宝暦6年（1756年）発行の「越後名寄」（資料④）巻第六の郡境の項には、逆川について、「頸城郡ト刈羽郡 鯨波ノ駅（★江戸時代の宿駅のこと）ヲ出、少シ山へ登リテ逆川ト云ヘル小川有、是界也。」と記されており、資料⑤に引用されている。

Ⅴ：逆川の道標は、「右八かみがた道」という文字と法師の像を刻まれ、北国街道米山三里旧道道標として柏崎市文化財（史跡）に指定されている。この場所は江戸時代、「佐渡から江戸への金の輸送に際して、柏崎陣屋の役人が柏崎の町役人とともに出向いて、高田藩及び鉢崎村の役人に引き渡すのが例になっていた。」と資料⑥に記されている。（次ページに続く）



右：逆川の道標

「陽だまり」ホームページ
北国街道米山三里旧道道
標より転載

(前ページの続き)

前述の相違のうち、Ⅲの地図で、逆川が海に注ぎ込む場所が、鯨波村地内であり、当時の西頸城郡米山村との境界ではなく、更に鯨波村地内の西側に松尾川があることと、「越後名寄」の記述との相違については、下記のように推察する。

Ⅰの地図では、トトメキ川は、上流部では逆川と記されている。しかも逆川の文字の付近に分杭が2か所あり、刈羽郡鯨波村と首城郡（頸城郡）青海川村の分杭境である旨の記述があるので、逆川は上流では郡境に位置していたが、下流ではトトメキ川と名を変え、鯨波地内で海に注ぎ込んでいたものではないか。

明治期の、市制町村制（明治22年）以前に作成された鯨波村の地図によれば、前川橋から河口までの川筋は、大きく東側に蛇行していた。

現在の前川橋は、昭和37年3月の竣工である。これに加えて、国道8号線が前川と交差する橋にも、前川橋と名付けられている。



上：前川橋（鯨波中央バス停付近）

奥に見えるのが信越線の鉄橋、さらにその奥がすずみ橋。国道8号線の前川にかかる橋（鯨の形の横断地下道付近）も前川橋という。

【参考資料】

- ①「柏崎の地図」 柏崎市立図書館／編（292 K トシ）
- ②「くじらなみ」 関甲子次郎／著 25 ページ（224 セキ）
- ③「新潟県刈羽郡鯨波村是」（224 クシ）
- ④「越佐叢書」第15巻 今泉省三・真水淳／編 159 ページ（080 エツ 15）
- ⑤「鯨波考古資料」 田村愛之助／著（224 タム）
- ⑥「ふるさと鯨波」 鯨波公民館・鯨波地区コミュニティ振興協議会／編 22 ページ（224 クシ）